

# キリスト教の日本に対する影響

ショーン・アンダーソン

## ．初めに

イエス・キリストの誕生以来、多くの人々によってキリストの教義、信条、または様々な解釈が諸国に広められた。キリストの伝道の任期は3年間のみであったが、それが世界の果てまで極めて重大な影響を及ぼした。日本もキリスト教の影響を受けた国の一つである。

## A. 研究目的と方法

この論文の目的は、キリスト教が日本へ影響を与えたという史的事実を収集・提示し、キリスト教が具体的に日本にどのような影響を与えたのかについて、事例を提示し、考察することである。本研究の方法は日本人の宗教観に関する先行研究を調査し、史的事実を確認し、文化人類学的な視点から日本に与えたキリスト教の影響を考察するものである。

これらの目的を達成するために、以下3つの方法を用いる。第一に、文献研究、すなわち、文化人類学的研究、社会学的研究、歴史学的研究のレビューである。第二に、現地調査である。キリスト教の影響を受けた場所の見学などを通してこの論文の研究が出来た。第三に、この論文の論の展開を定めるための文化人類学的、社会学的分析である。第三の方法と内容については、「論点」の節にさらに詳述する。

## B. 定義

読者にはそれぞれの宗教がある。そのうえ、キリスト教の中でも様々な宗派がある。この論文においては、誤解を生じさせないために、まず「宗教」と「キリスト教」の定義を行う。

宗教というと、大抵の人は神様を信じることと思うだろうが、宗教とは神あるいは神々に対する信仰であり、またこの信仰に結び付けられている活動、行為、儀式を行うことである。これらの活動には、教会あるいは神社、寺、神殿、モスクのような建物での祈り、礼拝が含まれている。また、宗教は組織の厳守とも考えられているだろう。死に関する事、道理にあわない事、試練、気掛かりな事など、すなわち科学的に認証できない事に関連するのが宗教だとも言われている。確かに、宗教についてのこれらすべての定義は適切なもの

のである。しかしこの論文においては、宗教を「人が人生に喜びと平和をもたらすための神聖な起源の信念に従う制度やそれを守る仁義」という定義を用いる事とする。

キリスト教の中でも様々な宗派と「キリスト教徒」の定義があるため、それぞれのキリスト教徒にとって普遍的な「キリスト教」の意味を探る。そして、イエス・キリストをあまり理解しない読者のために、その都度説明を加える事とする。

キリスト教の諸宗に従っている人の意見や随想録などの調査で、一つの定義の着想が浮かんだ。この論文においては、キリスト教はイエス・キリストと言う方の教え、また彼が神の御子の信条に基づいている宗教であり、その宗教に従っている人々の集団である。

イエス・キリストは様々なアイデンティティでもって知られている。キリスト教世界にとっては、イエスがこの世に生を受けた他のいかなる人よりも、人類の救いのために多くのことを成し遂げた人物である。他の人にとっては、イエスが神話的な人物である。神話か、実在かにもかかわらず、イエス・キリストと呼ばれている人物の教えは全世界に影響を及ぼしたことを疑えない。イエス・キリストはどんな人物であったかと言う質疑に回答することに、キリスト教の教義は向けられなければならない。キリスト教によると、人間は最初に純真であった。神が始めて造った最初の親の「アダムとエバ」は善も悪も理解出来なく、小さい子供のようで純粋な状態で神と共に「エデンの園」で暮らしていた。神はアダムとエバに戒律を授けた。その戒律の一つとして、エデンの園にあった「善と悪の知識の木」の実を食べてはいけないということがあった。しかし、悪魔に騙され、アダムとエバがその「禁断の実」を食べてしまい、世の最初の罪を犯した。これは「墮落」と呼ばれている。これで、人間は不完全になってしまい、罪を犯し始め、神と神の御許から離れさせられた。神はアダムとエバと彼らの子孫、すなわち、全人類が神の御許へ帰ることが出来るような方法を準備した。神は「仲保者」を備えると約束した。神の御子イエス・キリストがこの世に送られた。イエス・キリストの両親は父親の神と母親の人間のマリアで、特別な特徴があった。神の御子で神のように完全であったが、マリアは母親で人間のような肉体を持って感受性や罹病性を持っていた。この事によって、イエス・キリストは人間の世界と神の世界の間に存在した。この世にいる間に、アダムの子孫が神の御許へ帰れる方法、取りも直さず、神の「福音」を教えた。そして、行われた多くの奇跡の中で、キリストの最も栄光ある出来事は「贖罪」と知られている。人間にとって不可解な方法で、イエスは彼自身に世界の罪を引き受けた。この後、イエス・キリストは周りにいた人の不信仰で、迫害を受け、十字架に磔にされた。キリスト教によると、三日後イエス・キリストは復活し、天に帰った。キリスト教の目標は、人が悔い改めてキリストの教えに従えば、この贖罪を通して自分の罪を償われ、救われる事を世界に述べ伝える事である。大抵の現代のキリスト教会は、昔イエス・キリストが設立した教会の残りである。イエス・キリストの人生及

び教義について微に入り細にわたった説明を新約聖書の福音書は言及している。

キリストの業績は彼がこの世に存在していた時にのみ生起したと思われる。上述したように、人間の墮落でキリストは仲保者になった。キリスト教によると、キリストは人類の発端からこの世に来るまで、役割を果たしていた。キリスト教徒が用いている聖書には、2つの主要な構成によって成り立っている。それは旧約聖書と新約聖書である。イエス・キリストの生死、教義、復活、そしてキリストの弟子の教えは新約聖書に記されている。旧約聖書は最初の親のアダムとエバの時代から、幾世紀にもわたって神が備える仲保者とその来るべき勤めについて証した古代の預言者たちの記録である。神はその預言者たちを通して律法・戒律を人間に語った。旧約聖書によると、一人の「モーセ」と言う預言者が紀元前1400年頃に存在していた。神はモーセを通して「十戒」と呼ばれている道徳的な規範を人類に与えた。そして、様々な厳しい原則及び儀式も与えた。これらの戒律と儀式を最初に受容した人類はイスラエル人であった。モーセによって受けたので、「モーセの律法」とも呼ばれている。古代からモーセの律法に従っている集団は現代でも存在している。これがユダヤ教である。ユダヤ教徒は旧約聖書のみを使用し、神が備えると約束した仲保者、換言すれば、「メシヤ」が来る事を待っている。しかし、キリスト教徒にとって、イエス・キリスト自身がこのメシヤだと信奉している。そのうえ、旧約聖書の「神」はイエス・キリストだと言う教義もある。この信条を照明する為に、キリスト教徒は新約聖書のヨハネによる福音書に記されている言葉によく言及する。ある日、イエスはエルサレムでユダヤ人に彼らの会堂で教えを説いている時に、このように語った。「よくよくあなたがたに言うておく。アブラハムの生まれる前からわたしは、いるのである。」<sup>9</sup>その後、その会堂にいたユダヤ人たちが「石をとってイエスに投げつけようとした。」<sup>10</sup>なぜそこにいたユダヤ人は憤っていたのかと言うと、旧約聖書に言及を用いる。神はモーセと語った時に、モーセが神の名前を問う。そこで、神はこう言った。「わたしは、有って有る者。」<sup>11</sup>イエスはユダヤ人の会堂で旧約聖書に記されている事と同じような事を言った。つまり、イエスは「私はあなたたちの神だ」と言ったと感じたのである。これはユダヤ人にとっては非常に冒瀆的で、イエスを石投げで殺そうとしたのである。こうして、キリスト教徒はイエス・キリストが旧約聖書の神だと信奉しており、それゆえ、紀元前のユダヤ教も、古代のキリスト教であり、その一部であると考えられている。

---

<sup>9</sup> 新約聖書ヨハネによる福音書第8章58節153頁（下線は筆者による）、『聖書』日本聖書協会2001年

<sup>10</sup> 前掲書59節153頁

<sup>11</sup> 前掲書旧約聖書出エジプト記第3章14節77頁（下線は筆者による）

## C. 論点

キリスト教の日本に対する影響において、この論文は2つの要点で贈る。まず、キリスト教が日本に齎した影響を吟味する。キリスト教が最初日本国に上陸した頃から現代にかけての歴史を復習する。その後、古代キリスト教、すなわちユダヤ教の影響を検討する。この論点を展開する順序はこの論文の第三研究の方法である。なぜ現代から古代に遡る方法を用いるかというと、キリスト教の影響は現代において最も捉えやすいからである。その終で、一層複雑で把握しにくい古代キリスト教の影響を吟味する。そしてキリスト教が日本国に上陸した時代を論じる。

## . 本論

### A. キリスト教の影響

#### 1. キリスト教が日本に上陸した頃

##### a. 地代の状況

##### i. 室町時代<sup>12</sup>

日本にキリスト教が伝播したのは、室町時代（1392～1573）の終わりであったという記録がある。九州に上陸したキリスト教徒は、国家統一が進む以前の各地方が力を持っていた日本に遭遇した。足利義満将軍の時代（1358～1408）の間に、室町幕府は幕府周辺を統制する事が出来たが、遠隔地域の威力を次第に失っていった。それから、15世紀から16世紀にかけて、足利将軍と京都にあった政府の力は低下していき、遂には消滅する事になった。その後、地侍と言う村落に土着の武士が力を持つようになった。

これらの地侍は、最初にそれぞれの地方の有力者と協力して、そのうち何人かが周辺地域において威力を発揮するようになった。彼らはその後「大名」となり、それぞれ地域における実質的な統制者となり、数年間の戦国時代の間、戦い合った。こういう状況の中で、1542年にポルトガル人の商人と教会の宣教師が九州に上陸した。

##### ii. 安土桃山時代<sup>13</sup>

16世紀の中期、最も強力な大名達は日本全国の統制権力を手に入れるために競争していた。その一人が織田信長将軍（1534～1582）であった。織田信長は1568年に京都を捕らえて、日本の統一に向かって最初の一步をした。そして、1573年に室町幕府を打倒し、京都周辺の地方の覇権を握った。これによって、室町時代が終わり、安土

---

<sup>12</sup> <http://www.japan-guide.com/e/e2134.html>

<sup>13</sup> <http://www.japan-guide.com/e/e2123.html>

室町時代（1573～1603）になった。京都の基地から、織田は敵の排除を続けた。織田は仏教より、キリスト教の方を重んじていた。そのため、織田の敵の間には戦闘的な仏教宗派の一向宗（浄土真宗）も含まれていた。織田は、その時代の多くの大名のように軍隊を備え、火器を手に入れるためにポルトガル人の商人と宣教師を迎え入れ貿易した。1575年にこの新兵器の鉄砲を使用して、織田信長・徳川家康の連合軍は長篠の戦争で武田族を破った。1582年に織田は明智大將に殺害された。その後、織田の下で豊臣秀吉大將（1536～1598）は機敏な反応をし、明智大將を謀殺して管理を引き受けた。豊臣の統治で、以前にキリスト教は受け入れたことが変わりはじめた。

#### b. 日本の多元宗教論

ポルトガル人の宣教師はイエスキリストの教義を述べ伝える為に日本にやって来た。それは容易い任務ではなかった。キリスト教徒たちは九州に到着した1000年前に混合された宗教に遭遇した。そこには3つの国の主な宗教の要素があった。それは神道と仏教と儒教である。

##### i. 土着の神道<sup>14</sup>

神道は自然や先祖崇拝を受け入れる崇拝である。主な神は日本皇帝家の先祖の天照大御神である。神道の信仰徒は海、川、風、火や山の神々、または皇帝家の高名な戦士と忠実な使用人を崇拝して、主に天照大御神とその子孫の崇拝をしている。これは神道主義の特徴を構成している。神道の礼拝での基礎をなしている原則は清浄である。礼拝をする準備として、口と手を洗う事はほぼ規定された事項のようである。そして、神主と信心深い信者の頻繁な沐浴は清浄の卓絶した重要性を示す。神道主義の信者が清める不純物とは、死体や人間の血などとの接触、そして心の邪悪な想像から成り立っている。神道主義は神学、あるいは倫理の制度がない。神道には、仏教の仏陀やキリスト教の預言者のような創設者がはっきり存在しない。神道主義は人間の心の天賦美徳を教えるものである。

##### ii. インドの要素：仏教<sup>15</sup>

「仏教は仏陀の説いた教えである。世界三大宗教の中で一番大きい。5世紀頃インドのガンジス川中流地方に興った。仏陀釈迦牟尼の説法に基づき、人間の苦悩を解決するため

---

<sup>14</sup> 『We Japanese』 Frederic De Garis, Atsuharu Sakai ; Kegan Paul Limited、2002年；68頁

<sup>15</sup> 前掲書69頁

の道を教える。アショーカ王の入信により、インド全土から国外へも広まった。」<sup>16</sup>そして、東の中国と朝鮮に広まった。仏教は紀元後 552 年初めて日本に入った。当時朝鮮の百済の聖明王は内戦を心配し、日本に支援を要請した。その時、朝鮮の国王は日本の欽明天皇に仏典と仏像を献納した。これらの贈り物の後は僧侶と尼僧、及び寺の建築家が日本に上陸した。欽明天皇は大臣にこの新しい宗教を普及するように指示したが、仏教の導入は保守的な神道信者に強く反対された。たくさんの論争と苦闘に満ちた 50 年間の後、聖徳太子（574～622）は最初の女帝の推古天皇（592～628）の御代に帝国に安定した地位に仏教を確立した。その聖徳太子の行いはローマ帝国でキリスト教を普及させたコンスタンティンと同じであるため、時々「日本のコンスタンティン」と呼ばれている。

日本の最初の仏教宗派は 624 年に現れた。それは三論宗の教訓を普及させた。他の宗派も現れたが、凡そ 130 年間仏教の主な特徴は中国式のままであった。それから 2 人の影響力を持った僧侶の努力を通して、強い国家の素質が反映した仏教が広まった。最澄（767～822）、すなわち伝教大師は比叡山に位地した日本天台宗の開祖であった。そして、空海（744～835）、すなわち弘法大師は奈良の高野山に位地した日本真言宗の開祖であった。仏教に与えられた変化は主に「本地垂迹説」の適用であった。この教義によると、日本の神は本地である仏・菩薩の顕現だと言う概念である。この大胆な教義は両部仏教・両部神道の根元であった。それで、仏教は日本で全権を有するようになった。競合していた天台宗と真言宗は日本で仏教学習の源泉になった。

### iii. 中国の要素：儒教<sup>17</sup>

日本の家族組織構造には孔子の教え、すなわち儒教の倫理が存在している。儒教の「忠誠」という伝統的な社会論理と侍の子としての「信心」はすべての日本人における標準的な社会的アイデンティティとして普遍化された。

孔子（紀元前 551～479）は中国の歴史で最も知られた、そして恐らく最も影響力を持った思索家である。彼は魯の昌平郷陬邑、（現代は山東省曲阜）で貧困な家庭の子として出生した。20 歳になり、職業として穀物の店の経営を始めた。大抵の報告によれば、孔子は紀元前 501 年に魯の宰相になったとされている。彼は統治者の政策を承認しなかったため、4 年後に宰相を辞任したと言われる。それから 13 年間、孔子は州から州に放浪して様々の封建制の支配者に提言をして回った。これで幾人かの弟子が出来た。その後彼は生命の残りを過ごして教授する為に魯に帰った。

<sup>16</sup> 『広辞苑第五版』新村出版 2002 年「仏教」2342 頁

<sup>17</sup> 「Confucius」; 『The Penguin Dictionary of Religions』; 編集者: John R. Hinnels ; 出版社: Penguin Group ; 1984 年 ; 95～96 頁

孔子は独創的な思索家よりどちらかと言うと、本来教育者あるいは知識の送信者であった。彼は弟子を受け入れた時に、階級の差別をせずに貧困な人も弟子として受け入れた。彼の主要な行いの1つは、中国の生活と思想についての、重要な倫理的または人的主義的な再定義であった。「天子」という用語は「主権者の息子」と逐語的には意味しており、孔子がこの用語を用いることは、主権者の息子だけではなく、慈悲深く言葉が謙虚であった人にも包含した。孔子は、天が有益な個人的な力であると見ていた事は明瞭である。何人もの人が思っていたと異なり、孔子は不可知論者でも懐疑論者でもなかった。彼の政治的な考えへの重要な意見は、倫理と政治の同一視の主張であった。孔子は政体がただ権力を操作するよりも、むしろ本来道義的な責任の問題だと信じていた。孔子自身の考えの最も頼りになる源は「論語」に記録されている。日本では古事記とか日本書紀に記された応神天皇の時代（5世紀前後に比定）に朝鮮の百済より孔子の「論語」が伝来されたと伝えられる。

## 2. キリスト教が日本に伝播して数年後

ポルトガル商人が1542年に九州上陸した時に、カトリック教の祭司を連れて来た。その後数年の間は、そこに建てた教会は商人だけの為だけのものであった。それから7年後、キリスト教が日本へ影響を及ぼし始めた。宣教師が九州から送られ、キリストの教えは日本全国に広がっていた。結果として、様々な事が生じた。それはすべてフランシスコ・デ・ザビエルの到着から始まった。

### a. フランシスコ・デ・ザビエル<sup>18 19</sup>

1549年8月15日に日本の最初のキリスト教宣教師が日本に来た。その宣教師の中で最も偉大であったと言われているのはフランシスコ・デ・ザビエル（1506～1552）であった。ザビエルはスペインのナバラ王国に属していた貴族であり、そして、カトリック教のイエズイット修道（イエズス会）の一員であった。このイエズス会は「IHS」と押印されている旗で知られている。（“IHS”はIehsus Cristusの頭字語、つまりイエスキリストと言う意味である。）ザビエルは1541年に東洋の伝道をするためにインドからマラッカとかを遍歴した。ザビエルが会った最初の日本人はマラッカに駐屯していた「やじろう」と言う侍であった。ザビエルはやじろうの好奇心、鋭い常識や



<sup>18</sup> <http://pweb.sophia.ac.jp/~d-mccoy/xavier/laures/laures.html>

<sup>19</sup> <http://members.tripod.com/~jcolaco/sfx-2.html>



愉快的な性格について興味があった。そこで、ザビエルはヨーロッパにあったイエズス会の本部へ手紙を届けた。その手紙の内容には「もしすべての日本人がやじろうと同じような学ぶ事に対しての熱望があれば、彼らが世界中で最も驚くべき民族であろう。」というような言葉が含まれていた。ザビエル

がやじろうに日本まで付いて来るかどうか、そして多くの日本人がキリシタン（ポルトガル語でキリスト教徒との意味）になると望むであろうかどうか尋ねた。保持された記録によると、そこでやじろうがこう返事した。「我が国の民族はキリストの教えを最初に受け入れなかろう。最初にあなたに問いをし、そしてあなたの回答を考察し、そして取り分け、あなたの教えている事と行為が偽善でないのか調べるであろう。もしあなたの回答が彼らにとって満足なものであれば、そしてあなたの行為で咎めの事を見いださなかったら、すべての貴族とすべての知識人も、天皇さえ一年以内洗礼を受け入れるであろう。彼らは推理に導かれている民族だからである。」というような事を語った。そこでザビエルはキリスト教の基本を教えられた侍のやじろうと一緒に日本への宣教の遠征を計画した。1549年6月24日にザビエルは二人のヨーロッパ人の仲間と3人の日本人と二人のインド人の使用人と伴い、マラッカを出発した。彼らは2ヵ月後やじろうの出生地の鹿児島に上陸した。薩摩の大名の島津貴久（1514～1571）はこの外国の説教師を迎え入れる事を大いに喜び、そしてザビエルを鹿児島に置いておく事を切望した。島津はカトリックの宣教師の存在によって鹿児島の港へポルトガルの貿易船を誘致する事を密かに希望していた。しかし、ザビエルは日本のどこに移動し、福音を述べ伝え、福音を信ずる日本人を改宗させる為に後奈良天皇（1496～1557）に許可を頂こうと望み、都の京都へ向かい始めた。そして、11月の中旬に山口に到着した。

山口はその時非常に重要な町であった。それは力強い大内の一門の統治下であった。大内の一門は周防省だけではなく、本州と九州の隣接していた省も支配していた。ザビエルはその一門長の大内義隆大名（1507～1551）がキリスト教にとって忌まわしい悪徳を行っていた事が知り、福音を教える為にしばらく山口に留まる事にした。毎日ザビエルは彼の仲間のフェルナンデス牧師と道の岐路に立ち、説教をした。フェルナンデスはザビエルとやじろうが鹿児島で準備した手書きの教義問答を読んだ。彼が地球の創造の記述を読んでから、日本人の3つの大罪であると信じていた事を大声で批難していた。すなわち、偶像礼拝、男色と嬰兒殺しであった。彼らの説教の影響は多種であった。何人かの日本人は説教師が大胆に日本の神々に対しての非難をしたため腹を立てていた。他の何人かはキリスト教の教義の美しさに感銘を受けていた。また、他の人はザビエルとフェルナンデスの変な見掛けやぼろ姿の衣服や無骨な日本語をからかった。ザビエルは山口での努力



の空しさを実感し、遂に山口を出て、皇帝室への旅行を続ける事を決意した。京都に着いた後に、ザビエルは山口にいた時経験した事と変わらず、成功を見なかった。彼が後奈良天皇を訪ねる事は不成功に終わっただけではなく、説教に興味を持っていた聴衆を見出しさえする事が出来なかった。この経験を通して、ザビエルは天皇が真の権力を獲得しておらず、従って帝国の許可がほとんど無駄である事が分かった。そして、ザビエルは大内義隆が日本で最も強い力を持っている1人だと悟った。それから首都での11日の短い滞在の後に彼は京都を出発して、山口へ帰任することを計画した。しかし今回山口で成功しようと思うならば、ザビエルは彼の酷評的な態度や貧相な見かけを改めることが肝要だと考えた。



ザビエルが日本へ旅を始めた時、インドの総督はザビエルに大使として伝言を日本の天皇へ持って行く責任を委託した。同じく、ゴアのカトリック教の司教はザビエルを公使として任命した。彼らの天皇への伝言の内容では、ポルトガルの国王の友情を日本の支配者に伝えるものであった。その代わりに、彼らは天皇が「神の律法」の説教師を受け入れることを要請した。ザビエルは伝道の成功を確かめるために、天皇のための非常に多くの贈り物を日本まで持って行った。天皇へ訪ねる計画がすでに失敗したため、ザビエルはインドの総督とゴアの司教の伝言、または贈り物を山口の大内義隆大名へ持って行くことを決意した。それから、大使に適している服装を身に着け、フェルナンデスに伴われ、2度目の山口へと向かった。彼らが伝道のやり方を変更したため、大内は喜んで彼らを受け入れた。ザビエルたちは大内から山口で誰に対しても福音を教える許可を受け、そしてザビエルたちを襲ったり、怪我をさせたりする人が酷い罰を受けることされた。大内一門の政権による計らいによって、ザビエルはやっと求めていた自由を得た。そして2ヶ月の間に、山口で500人が洗礼を受け、新改宗者の人数が毎日増加していた。しかしながら、反対が生じ始めた。ザビエルが仏教の信条に対して反論を書き、そして坊主が天国へ行けるための“マジックパスポート”を売っていたことを非難した。これで山口の真言宗の坊主たちがキリスト教徒と敵対することになった。この頃、ザビエルは教会の発展を観るために、ゴアに戻ることに決めた。ザビエルが山口から去った後、反乱が起こり、大内義隆と彼の息子は謀反者とその指導者の陶晴賢（1521～1555）に長門市の大寧寺の境内で囲まれ、自殺した。大内は死ぬ前に、安芸国にあった要塞の主の毛利元就（1497～1571）へ書簡を送り、彼の死を復讐する任務を託した。毛利はそうして、謀反者から山口の返還を要求した。山口にいたキリスト教徒にとっては不幸なことに、以前に安芸の主であった毛利は仏教の一向宗の熱心な支持者であり、キリ

スト教の信条には敵対していた事であった。そのため、新しい統治下にあってキリスト教徒にとっての困難な時代がはじまった。

その間、ザビエルはゴアへの船に乗っていて、中国で停船していた。ザビエルは日本人が知恵と新しい考えを得るために中国に頼っていたことを知っていた。中国はその頃外国人にとって区域外であったが、ザビエルは中国を通して一層効果的にキリスト教を日本に伝播する計画を立てていた。その計画では、船長を中国の皇帝への大使と指名することで、ザビエルが大使の補助者として中国に行くことを希望した。その計画がしくじって、そして新しい計画が実現された間に、ザビエルが熱病で患い、次第に悪化した。そして、フランシスコ・デ・ザビエルが1552年12月3日の早朝逝いた。

#### b. キリシタン大名<sup>20</sup>



ザビエルとイエズス会の宣教師の努力によって、成功を達成し遂げた。仏教が反対したにもかかわらず、西日本の多くの大名は火器を入手することを願い、軍の理由で外国の商人との貿易に興味を持っていたため、キリスト教を歓迎した。前掲書の鹿児島島の島津貴久は喜んで宣教師を受け入れた。しかし、彼自身はキリスト教に改宗することはなかった。1549年にザビエルと会ったが、貿易しか興味がなかったようであった。その息子の島津義弘（1535～1619）は鹿児島に次第に増加してきた外国の商人とキリシタンの民衆のため、島津の紋を改めた可能性があるとされている。最初は、偉大な島津一門の定紋は丸の中にある十紋字であった。それは絵で示されている。義弘自身の定紋はキリスト教の聖像の十字架に似ている。兄の義久（1533～1611）と共に多数の軍事活動においてその旗を使っていた。しかし、長崎の「26聖人記念館」の館長または歴史家の結城了悟神父によれば、島津一門の定紋とキリスト教は関係がないということであった。<sup>21</sup>

少数の情報源によると、キリシタン大名は当時多く存在した。以下は少数の改宗者のリストである。荒木村重（15??～1586）・一条兼定（1542～1585）・小西行長（15??～1600）織田秀信（1581～1602）・高山右近（1552～1615）・蒲生氏郷（1556～1595）・有馬晴信（1567～1612）・京極高次（1563～1609）・黒田孝高（1546～1604）・大友宗麟（1530～1587）・大村純忠（1533～1587）。

大友宗麟は別名で大友義鎮であり、弟の八郎が山口の大内の後任になったけれども、毛

<sup>20</sup> <http://www.samurai-archives.com/registry.html>

<sup>21</sup> 結城了悟神父と電話インタビュー2003年8月4日

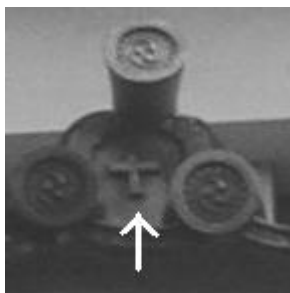
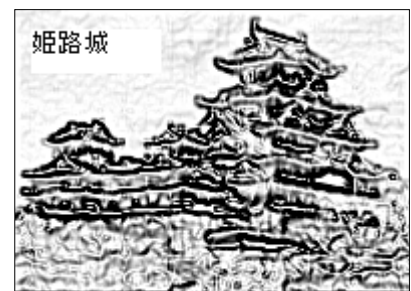
利元就との戦いにおいて敗北した。大村純忠は最初のキリシタン大名であった。

i. 大村純忠<sup>22</sup>

大村純忠は有馬晴純大名（1483～1566）の息子である。1538年肥前（現在は長崎）の大村一門に養子され、そして1551年肥前の領主となった。大村純忠は自分の家臣に連続して反乱を経験したため、ポルトガルの商人とジェズイット修道の宣教師と絆を構成することによって権威を強くしよう努めた。そして、彼は1563年洗礼を受け、キリシタンの名のバルトロメオとキリスト教徒と呼ばれ始めた。その代わり、ジェズイットの商人たちが年度の貿易船を肥前の港に迂回する事とした。次の年、大村の家臣がその港を破壊したが、他の港に立ち寄り続けた。1580年6月9日に「永久に」肥前をイエズス会に割譲した。しかし、1584年に島津一門が肥前を占拠地した時、この割譲は錯覚と見られていた。そして、1587年大村純忠が亡くなり、豊臣秀吉（1537～1598）が島津を破り、肥前を吸い寄せ、キリスト教解禁を布告した時に、肥前の割譲は無効にされた。

c. 姫路城の「十字紋の鬼瓦」

キリスト教が影響を及ぼしたのは人間だけではなく、日本の建築まで影響を及ぼした。1618年に完成したと言われる姫路城は他の城と異なる瓦がある。本堂までの道をとって、八門を越えて二門がある。この二門の白壁の上か



ら2番目の切妻にキリスト教の十字架が刻んである。これは「十字紋の鬼瓦」と言う。なぜ日本の城にこんな事があるかと言うと、姫路城の案内者の安部みえ子さんによると、姫路城の築造の期間（1601～1609）、そこを占領していた黒田孝高大名が築造を監督し、キリスト教に改宗したという話しが関係するという。

また、諸学者によると、城は16世紀の中頃に建てられたものであり、1549年にポルトガル人の宣教師によって日本全国に広められたキリスト教に、姫路城の大工や建築家などが改宗し、十字紋の鬼瓦を作ったという話しもあるという。黒田孝高か、姫路城の大工か、どちらの話が真実か誰も分らないと安部さんが言う。

<sup>22</sup> <http://www.baobab.or.jp/~stranger/mypage/sumitada.htm>

d. キリシト教解禁と26人の殉教者<sup>23 24</sup>

16世紀キリシト教は長崎や山口などで栄えていた。1564年正親町天皇（在位1557～1586）はキリシト教の宣教師を追放したが、その追放は長く続かなかった。1568年織田信長は京都を取得してから、1569年にイエズス会士のフロイス司祭（1532～1597）と謁見し、キリシト教の宣教師が京都に在住することを許した。その後織田は家臣の明智光秀（1528?～1582）に京都の本能寺で襲われ、自刃した。豊臣秀吉はこの機会を利用し、織田の死の13日後、明智の軍を破り、権力を奪った。

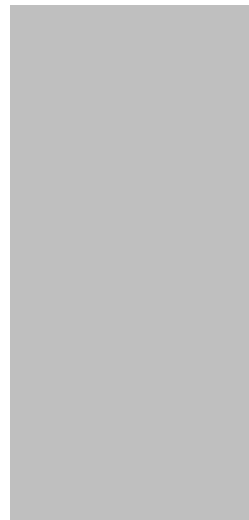


この間、キリシト教の改宗者は多くなっていた。このキリシト教徒の増加は仏教の浄土真宗や一向宗にとって厄介な存在になっていた。そして、豊臣はこの急激な増加と高山右近のような力の強い大名がイエス・キリストが主君と呼び始めた時に不安を感じ始めた。豊臣は元来キリシト教や外国の学習を好んでいたが、やがて脅威を感じ始めた。豊臣はキリシタン大名の大友義鎮の要請で島津一門を破ることを助力したものの、その後すぐに、1587年にキリシト教徒に対しての政策を弾圧の方針に転換し、1589年にはキリシト教禁止の法令を出した。キリシト教禁止により、外国人の宣教師を皆日本から追放し、日本人のキリシタンはキリシト教を放棄しなければならなかった。しかし、最初これは強硬に実施されなかった。これは恐らく豊臣が外国貿易と外国の宗教の潜入を区別したためであった。しかしその後、豊臣は目的を強調するために京都で26人のキリシト教徒を逮捕し、その26人を強制的に長崎までに行進させることを命じた。長崎に行く選択は故意であった。最初のキリシタン大名の大村純忠は肥前をイエズス会に割譲した大名であったため、豊臣は長崎での公の死刑執行は、速く長崎のキリシト教徒にキリシト教を断念させる事になるだろうと確信していた。26人は西坂の丘まで行進させられた。大衆が見えるようにするために、26本の鋸で挽かれた十字架が西坂の端に港まで並べられていた。26人は鉄の輪と縄で十字架に締められた。それぞれの十字架の下に二人の侍が槍を持って立っていた。この間、十字架に掛けられていた26人は賛美歌を歌い始めた。死刑執行を監督していた侍が心配し始めた。彼の主君の豊臣が命じた通りの成果は上がらずキリシタンの勇気の展示になったからであった。最終的には、侍が槍で26人の胸郭を突っ込み殺した。傍観していた群衆の沈黙が急に激烈

<sup>23</sup> <http://www.samurai-archives.com/registry.html>

<sup>24</sup> 『A Song For Nagasaki』; Paul Glynn; Marist Fathers Books、2002年；25～27頁

などよめきになった。豊臣が意図していた屈辱的な光景はしくじった。この26人は殉教者になり、キリスト教の威信が劇的に上昇し、改宗者の人数が増えた。



1598年に豊臣秀吉は病没し、莫大な政権争いが戦国の大名の間で起きた後、徳川家康将軍（1542～1616）は勝利し、徳川は豊臣より一層専制的な独裁者になった。徳川はキリスト教、特にカトリック教に関して邪推していた。徳川は宣教師がスペインの征服者と伴い、地球中に植民地の旅をしていた事を知り、高山右近や農民が全権を持っていた豊臣秀吉に従わず不法とされた外国の宗教に賛成したことで動揺していた。1614年に徳川は反抗を全て壊滅させ、キリスト教会禁止令を増強した。大量の報酬が司祭や宣教師が隠れていた場所の情報のかわりに提供されていた。大勢のキリスト教徒は信仰を放棄せずに死を選択する時、徳川はキリスト教徒を挫くために拷問

にかけ始めた。長崎とその近郊は将軍の代理人や軍人で満ちていた。処刑された司祭の後任になる司祭が長崎に密かに入ってもすぐに逮捕された。処刑を避けるために、多くの長崎のキリスト教徒は「隠れキリシタン」になり、沖合の島々や浦上のような奥地や本州に移住し、司祭なしでキリスト教を保持する方法を考案した。

#### e. 島原の乱<sup>25 26</sup>

キリスト教禁止令はスペインやポルトガルのような西の諸国との禁止された貿易も含んでいた。徳川幕府は国際貿易が中国とオランダとのみ行うこと、そして、長崎の港だけで貿易をすることを許した。また、日本に来る外国人は長崎市南部の出島に限定して滞在が許されていた。その上、外国に移住していた日本人が帰国することさえ許されなかった。これらの厳密な状況の間、島原という長崎県の南東の市は最も厳しいキリスト教弾圧を受けていた地域の一つであった。島原は徳川幕府の統治の下で多くの封建制に基づく支配者が存在した。これらの支配者たちの間で、島原の基礎構造を装備したと努力したのは松倉一門であった。松倉重政（?～1630）の統治下で島原の領土の農民たちは重い課税や無情な圧迫を受けていた。重政が死んでも、農民たちは課税され続いていた。このようにして、農民たちの不満が爆発寸前になっており、そして1634年から1637年までひどい凶作があった。しかし凶作でも、年貢の量は変わらなかった。餓死者があり、キリシタンの農民たちはもう進退窮まる状態に置かれた。1637年に松倉一門に反乱すること

---

<sup>25</sup> <http://www4.justnet.ne.jp/~aoh/SHIMABARA.HTM>

<sup>26</sup> <http://www.ffortune.net/social/history/nihon-edo/simabara.htm>

になった。農民たちの反乱の首領は16歳で非常に若い益田時貞（1621～1638）であった。益田はキリシタン大名小西行長の遺臣の子だと言い、肥前の天草の出身である。1637年益田は凡そ島原と天草から3万7千人のキリシタン反乱者を原城まで指導し、そこで徳川幕府が派遣した凡そ12万4千人の軍と戦った。1638年に反乱者は全員死んでいた。島原の乱の後、徳川幕府はキリスト教徒をより弾圧することになった。そして、ポルトガルとの外交関係を切るに至った。

#### f. ペリーの黒船<sup>27 28 29</sup>

徳川時代（1600～1867）の間、仏教の寺院は「檀家制度」の執行を許可されるかわりに国の執政に関する支援を行っていた。檀家制度とは、ある地方のすべての住民が地元の寺で檀家として家の構成員を登録するように要求され、生産と死亡、または結婚を通知しなければならなかった。この制度の一部として、坊主が毎年庶民の一人一人にキリシタン信徒ではない立証の「寺請」を發布した。それで、徳川幕府は仏教の坊主を利用し、日本中の住民を監視したり、統制したりしていた。日本はほとんど完全にどこの外国からでも約200年間隔離されていた。

19世紀に、アメリカ合衆国の南北戦争が終わって、カリフォルニア州まで拡張し、アメリカの「自明の運命」（アメリカは北米土を支配し、開発をすべき運命を担っている理論）を達成した。それから拡張主義者は太平洋やアジアに向かった。これらの拡張主義者の一人は中国海に駐屯していた米国海軍の艦隊のマシュー・C・ペリー提督（1794～1858）がいた。1852年、ペリーは英国がもう香港とシンガポールを管理していて、まもなくその区域を全部管理するようになると米国のフィルモア大統領に警告した。ペリーは合衆国が日本の「いくつかの港を安全に保つように処置」をするという勧告をした。フィルモア大統領が賛成して、1853年7月8日にペリーと米国の四つの船は江戸湾（東京）に入港した。浦賀の将軍は米国の船が長崎の港に移動しなければならないという命令をしたが、ペリーは確固として断った。14日に日本国に書類を提出した。その書類の間に、孝明天皇（在位1846～1866）への手紙があった。その手紙の内容は米国航海の漂流者の保護や、石炭を買う権利や、一つあるいはそれ以上の港を開港することの要求



マシュー・C・ペリー

<sup>27</sup> 『Christianity Made in Japan』； Mark R. Mullins ； University of Hawaii Press, 1998 ； 7 頁

<sup>28</sup> <http://mickmc.tripod.com/perry.html>

<sup>29</sup> <http://www.lupinfo.com/encyclopedia/P/Perry-Ma.html>

が含まれていた。それから、ペリーの遠征隊は中国の海岸に戻った。1854年2月にペリーと強化された艦隊は再び日本に戻った。その結果として、3月31日に横浜の近くで、米国の要請においての欧米と日本との貿易条約が記名捺印された。下田の港と函館の港が開港された。そして、この条約の内容として、外国人が滞在している場所に教会を建ててもよいという規定が含まれた。これによって、キリスト教の司祭は日本に入国できるようになったが、日本人がキリスト教に改宗することはまだ禁止されていた。

#### g. 隠れキリシタンとキリスト教徒の返還<sup>30 31</sup>

1614年に徳川幕府が命じたカトリック教の牧師の追放とキリスト教徒の迫害は外国の宗教を排除することを意図して行われてきた。若干のキリスト教徒の迫害においての反応は信仰を宣言し、殉教を受け入れるが、大抵のキリスト教徒が信念を隠して、密かにキリストを祝っていた。あるキリシタンの共同体の住民は比較的隠れやすい遠隔の地に移住することにした。1640年に徳川幕府はキリスト教徒の全滅に向け、宗門改役を設立し、踏絵が確立した。踏絵とは、徳川幕府が「キリシタン宗門を厳禁するため、聖母マリア像・キリスト十字架像などを木版または銅版・真鍮板に刻み、日本の（住民に）足で踏ませて、宗徒でないことを証明させ」<sup>32</sup>たというものであった。司祭がいなかったため、日本のキリシタンの共同体は平信徒の指導を依存していた。彼らは徳川



隠れマリア像

幕府に強制的に仏教や神道の実行をさせられたため、隠れキリシタンは二重宗教の生活を発展し、密かにキリスト教の信念と実行を維持していた。隠れキリシタンの家の中に、ちょっと変わっている像があった。徳川幕府の侍にとってこの像は7人の運の神々弁天だと見えていた。しかし、弁天の像の持っている籠の中に魚がある。魚はイエス・キリストの印である。この像は弁天の像ではなく、聖母マリアの像であった。こうして、日本人の隠れキリシタンが弁天を祝っているように侍にとって見えても、実はマリアを祝っていた。隠れキリシタンは200年以上このようにキリスト教の祝いを続けていた。司祭や印刷した本や文はないため、キリスト教のすべての教義と礼拝形式は口頭で伝わった。

1854年に日本が欧米との貿易条約を署名した後、日本の住民はまだキリスト教に入信することを厳しく禁じられた。日本と外交関係を確立した国々（仏・英・米）は外交官の家族のための礼拝堂を建造するために日本の政府に請願した。許可が与えられ、186

<sup>30</sup> <http://www.baobab.or.jp/~stranger/mypage/kakure.htm>

<sup>31</sup> 『No Greater Love』; Robert M. Flynn S.J.; エデック株式会社; 1995年; 1～2頁

<sup>32</sup> 『広辞苑第五版』新村出版2002年「踏絵」（括弧とその内容は筆者による）

5年にフランスが大浦で教会を建てた。その頃、徳川幕府の力は弱っており、日本は明治時代に向かっていった。それから、1865年3月17日に少数の日本人がフランスの教会の司祭に会いに行った。そこで、一人が司祭に「サンタマリアに祈りますか」と尋ねた。それで司祭はマリアの像に指差した。像を吟味した後、日本人は司祭に「私たちと神父の心は一緒だ」と言った。彼らが浦上から来たと言い、そこはキリシタン共同体であった。こうして、隠れキリシタンの存在が発見された。

#### h. 津和野の乙女峠<sup>33</sup>

1867年11月最後の将軍が死亡し、徳川幕府が崩壊し、天皇が中心とする新政府が成立され、日本は12月から明治時代に入った。新しい政府はすぐに浦上に隠れていたキリスト教徒の問題に直面した。明治維新を達成した革命家は天皇への敬意の基礎として巧みに日本の伝統的な神道を復活させた。仏教も政府による支持がなくなったが、それ以上にキリスト教は前と同じく厳格に禁止されていた。そして、明治政府は日本に侵入した外国人に対して強く憤慨すると同時に西洋のように現代化することに対する熱望があった。日本の政府は窮地に陥っていた。

この問題に対する2つの解決が提案された。1つ目の提案された解決はキリスト教禁止令を守らせて隠れキリシタンを処刑するという解決であった。2つ目の提案された解決は寛容の態度であった。1つ目の解決は徹底的すぎであったが、日本政府は寛容の準備ができていなかった。それから、妥協案が提案された。それは浦上のキリスト教徒が神道に改宗させることであった。それで日本の政府はこの「再教育」の政策を取ることに決めた。しかし、これらのキリスト教徒は断固としてキリスト教を断念することを拒否した。その次の処置は一層徹底的であった。これらの手に負えないキリスト教徒が浦上から追い立てられ、国全体に散乱させるべきであると決定された。凡そ3千5百人の浦上キリシタンは追放させられた。彼らは小さい群をなして、20の場所に送られた。次の図はどこへ、何人のキリスト教徒が追放された事を示すものである。1868年7月10日に28人のキリスト教徒は山口の北にある津和野という小さい町に追放された。津和野は小さいにもかかわらず、そこの大学の宗教学者の威信が強いため、追放地として選ばれた。28人のキリスト教徒は津和野の「乙女峠」という場所に行かされた。この峠の由来は、何百年前、ある津和野の領主の娘が京都の皇子と婚約したが、断られたことになる。彼女の悲しみで津和野の峠に放浪し、行方不明になり、彼女の名誉に与えるため、「乙女峠」と名づけられ

---

<sup>33</sup> 『No Greater Love』; Robert M. Flynn S.J.;エデック株式会社; 1995年; 5～7頁



た。<sup>34</sup> 28人のキリスト教徒は津和野で捨てられた寺で閉じ込められ、洗脳され、食物や衣類の削減を受けさせられた。



結果として6人がキリスト教をやめたが、他の22人が断固としていた。説得が失敗し、一層厳しい方法に変わった。彼らはキリスト教徒を三尺牢（約1m<sup>3</sup>）という非常に狭い牢屋に閉じ込め初め、洗脳し続けた。このような迫害を受けていた一人が聖母マリアに訪れられたと言った。殉教者の間に子供もいたという。天王星を支持していた政府は津和野での極端な処置に気づいておらず、外国の宣教師がやっと津和野の地域に訪れた。それで1871年に英国の副領事が残酷なことが行われていることを伝え、調査が行われ、津和野で起こっていた行為は明らかにされた。その時以来、カトリック教の礼拝堂が津和

---

<sup>34</sup> 前掲書10～11頁

野で建てられた。そして、日本人はキリスト教を自由に実行できる事になった。

### 3. 現代日本におけるキリスト教の影響

キリスト教が現代において影響力が最も強かった時代は恐らく第二次世界大戦の後であった。天皇は神性を否定し、日本に衝撃を与えた。その後、多くの日本人はキリスト教に向かった。一人の改宗者は1945年の状況を次のように記述している。「大多数のキリスト教徒は無批判で西洋の宣教師の教えを受け入れた。彼らはあの世の“神の市”の考えを受け入れた。彼らは正真正銘の教会を“目に見えない教会”にし、そして社会の現実を“非宗教的な物”にした。これは日本の伝統的な社会に信頼を持っていなかった日本人にとって非常に有意味であった。事実上、そのキリスト教徒はめったに伝統的な日本の社会を批判しなかった。その代わりに、あの世の“霊的な福音”を“非宗教的な”社会からの逃避として受け入れた。そのキリスト教徒たちは現代日本の福音主義のキリスト教を方向付けている。」<sup>35</sup>

現代の日本のキリスト教は多様な形態で社会の下位文化となっている。それは西洋の宣教師によって移植された多くの教会の慣例、土着のキリスト教の運動、キリスト教に影響され且つキリスト教の組織に所属していない個人的な信仰システムを含む。その個人的な信仰システムはキリスト教に影響された限り、数人の個人的な信仰のシステムが同じであれば、新しい宗教や宗派が現れる。それは日本の土着キリスト教と東洋の古来の考え方を援用したキリスト神仏混交の宗教（ニューエイジ宗教）である。

#### a. 日本の土着キリスト教<sup>36</sup>

カトリック教とそれから来たプロテスタントの宗派は日本の宗教界に来る新参者として、「外国の宗教」としての評価を捨てる事において、かなり困難な経験を経ている。時折キリスト教の「西洋性」は日本人の間で魅力的なものと捉まえらる点において貢献したが、大きな部分において問題だと見なされた。キリスト教に改宗した最初の日本人の多くはこの問題が主に外国の宣教師の所為だと感じていたようである。日本にあるキリスト教は不必要に西洋の組織的な形式や宗派の政治や宣教師の管理に制約されていた。統計（日本の人口の凡そ1%がキリスト教徒である）により大抵の日本人が西洋宣教師の福音伝道

---

<sup>35</sup> 『The Clash of Civilizations: An Intrusive Gospel in Japanese Civilization』; Robert Lee ; Trinity Press International, 1999年; 46頁

<sup>36</sup> 『Christianity Made in Japan』; Mark R. Mullins; University of Hawaii Press, 1998年; 14~15、25、42頁

者の嘆願や要求を拒絶したことを示しているが、土着と無宗派の運動は移植されたキリスト教に対して微妙で、重要な反応を示めしている。この問題は1890年に日本土着キリスト教の無教会の創立者に次のような言葉で表わされている。「宗派閥の偏屈者は異教の国で自身の些細な嫉妬を復興している。これのため彼らの先祖は戦い、焼き尽くし合った。これらの宗派閥の口論と嫉妬が日本人の目にとって醜く、不愉快な事はない。それより一層悪く、日本人の求道者は様々なキリスト教の宗派の間に相反している教義の迷路に混乱される。」<sup>37</sup>これは全世界に起きるパターンである。一つの集団は諸宗派の欠点を見だし、その反応として新しい宗派を創立する。その後このパターンは同じ事を繰り返す。

明治維新以来1992年頃まで、ほとんど176のキリスト教の宗派が日本で宣教の活動を始めていた。その宗派からいくつかの日本土着のキリスト教の宗派が現れた。次の表は少数の土着キリスト教の宗派を示す。

| 土着の宗派       | 創立年  | 土着の影響             |
|-------------|------|-------------------|
| 無教会         | 1901 | 儒教、武士道            |
| 道会          | 1907 | 新儒教、陽明学派、神道       |
| 基督心宗教団      | 1927 | 儒教、仏教、山での苦行       |
| 栄光の福音キリスト教  | 1936 | -----             |
| 活けるキリスト一麦教会 | 1939 | -----             |
| 基督カーナン教団    | 1940 | -----             |
| 日本キリスト召団    | 1940 | -----             |
| イエス之御霊教会    | 1941 | 民俗の宗教伝統、先祖の崇拝     |
| 聖イエス会       | 1946 | 念仏、先祖の崇拝          |
| 聖成基督教団      | 1948 | -----             |
| 原始福音（幕屋）    | 1948 | 無教会、民俗の宗教伝統、山での苦行 |
| 活かすキリスト     | 1966 | -----             |
| 沖縄キリスト教福音   | 1977 | 沖縄のシャーマニズム        |

上記の表が示しているように、原始福音が無教会に影響され、新しい宗派が創立された。

西洋の宗教の宣教師や土着キリスト教の運動は今でも続き、キリスト教会員は殖えているが、日本の人口の1%以下と変わらない。

<sup>37</sup> 前傾書24頁

## b. 日本の「ニューエイジ宗教」

キリスト教が日本に導入された以来、日本では土着キリスト教だけでなく、仏教の新しい宗派や仏教の要素が強い宗教も現れている。これらの宗教の多くは起源が微妙で、目的が不明である。その二つは世界真光文明教団と創価学会である。

### i. 世界真光文明教団<sup>38 39</sup>

世界真光文明教団（真光）は日本で1959年8月に岡田光玉によって（1901～1974）創立された。真光の信徒によると、岡田は1959年2月27日に主神という神から啓示を受け、真光を創立するように命じられたと言う。そして、真光には入ると希望している人は改宗という事をせず、仏教徒やキリスト教徒やイスラム教徒が信念を捨てなくても入る事が出来るという。真光の最も顕著な特徴は「真光の業」という。この業をするために、真光の普通の信徒でも高い次元の光を得、そしてその精神的な光を掌から放射するという。そして、真光の業を受ける人は霊的な障害を解消され、体の健康を良くされ、さらに救われるという。そして、3日間の研修会を受講したら誰でも真光の業が出来る。真光は従者を増やすために、真光が無宗派であると宣言する。イエス・キリストも仏陀も人を癒すために真光の業を利用していたと言う。全体の会員は凡そ2百万人である。

真光の起源は神秘に包まれている。真光の元会員の多くは真光が取り入れる「シオンの博識な長老の儀典」と呼ばれる神秘的な原稿について語る。アドルフ・ヒトラー（1889～1945）もこの「儀典」を使っていたという。オウム真理教も同じ「儀典」を信じていたという。1993年5月28日にオウム真理教の西オーストラリアにある地所で核爆発のような爆発が起こったという。真光が使っている「御聖言」という聖典に、「人間が謝罪の態度がない限り、火の玉の生産は止められない」というような言葉を真光の創立者の岡田光玉が書く。世界真光文明教団とオウム真理教は関係があるかどうか、謎のままである。

### ii. 創価学会<sup>40 41</sup>

日本は新しい宗教の受容をしたため、仏教でも多数の新しい組織や宗派が現れている。これらの中で最も強い力を持っているのは創価学会であると言われる。

---

<sup>38</sup> <http://www.mahikari.org/mahikari.htm>

<sup>39</sup> <http://www.rickross.com/reference/mahikari/mahikari9.html?FACTNet>

<sup>40</sup> [http://www.sokagakkai.info/html3/sg\\_today3/sg\\_today\\_index3.html](http://www.sokagakkai.info/html3/sg_today3/sg_today_index3.html)

<sup>41</sup> <http://daisaku-ikeda.com/>

創価学会は仏教の学者の日蓮（1222～1282）の教えや哲理を受容している組織である。1930年に牧口常三郎（1871～1944）と戸田城聖（1900～1958）は創価学会を最初に創価教育学会として創立した。牧口は熱心に教育修正に打ち込んだ。牧口と戸田は1920年に出会った。その時から彼らは共に学び、そして日蓮正宗に改宗した。牧口は1928年に日蓮の哲理を勉強してから、それによって彼の創価理論を支える事が出来ることを悟った。そして、牧口と戸田は人間の固有の、かつ無限の潜在能力に影響を与える教育を促進するために創価教育学会を創立した。1942年に会員は3千人いた。

第二次世界大戦の状況が日本にとって悪くなり、日本政府は民衆が神道に忠誠を誓うために努力を強くしたが、牧口は政府の命令を拒否した。それで、政府は牧口や戸田や何人かの創価学会の指導者を逮捕した。1944年11月18日牧口は刑務所で逝いた。日本の降参の少数週間前に、1945年7月3日に戸田は釈放され、創価教育学会を復元しはじめた。戸田は創価教育学会が教育だけに限定されるべきではないことを悟り、創価学会に改名をした。そして1951年5月3日に創価学会の第二会長になった。1958年に戸田が亡くなった、当時は、全体の会員は凡そ75万人となっていた。

創価学会において最も影響力を持っていた人は恐らく池田大作（1928～）であり、1960第三会長になった。池田は1964年に日本の2番目のもっとも強力な政党の公明党を結成した。池田は1979年までに会長であったが、今まで創価学会の名誉会長となっている。池田は、政治的、また金融関係のスキャンダルによって、公明党の会長としての責任をとって辞職した。そして、1991年に親分にあたる日蓮正宗によって創価学会に対して解散要求があったが、創価学会は日蓮の教えを受け入れながら、解散せずに日蓮正宗から独立した。現代は創価学会の会員数は凡そ1千万人となっている。

## B. 古代のキリスト教：ユダヤ教の影響

「定義」の節にある既述したように、紀元前のユダヤ教はキリスト教の予備の福音であり、その一部である。以上の論述では古代キリスト教がいかに日本に影響したのかを、そして今までそれについて明らかにする。初めに、ユダヤ人の先祖のアブラハムからの系図を簡単に説明し、そして聖書によりアブラハムの他の子孫がどうやって日本に上陸し、影響をしたかを調査する。

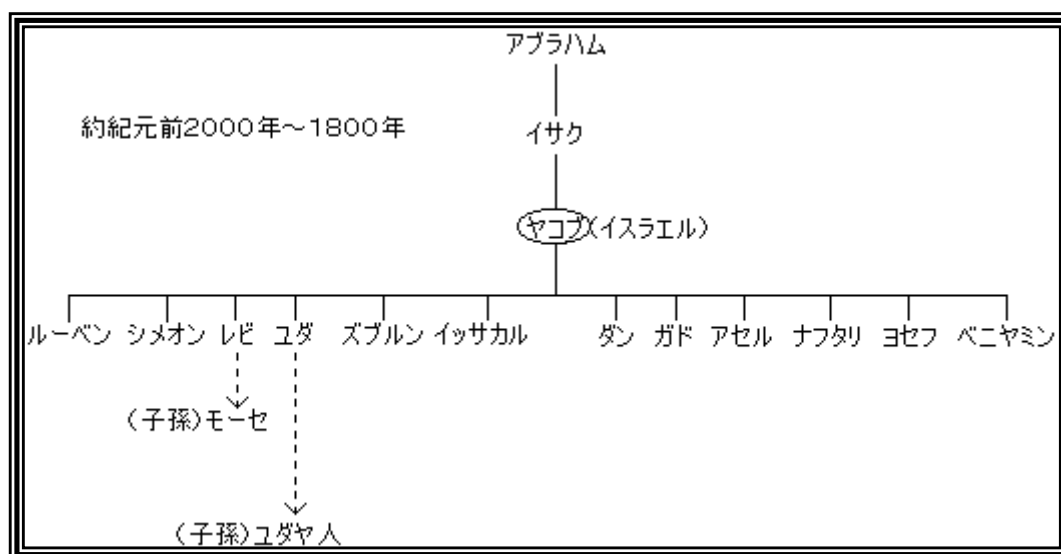
### 1. 行方不明のイスラエルの部族

歴史において、ユダヤ教徒は何度も彼らがアブラハムの子孫であると公言する。そして、トラー（ユダヤ教が使っている聖典：キリスト教の旧約聖書最初の5書）による神がア

ブラハムとの聖約を主張している。旧約聖書によると、神はアブラハムに次のように言った。「わたしはあなたに多くの子孫を得させ、国々の民をあなたから起こそう。また、王たちもあなたから出るであろう。わたしはあなた及び後の代々の子孫と契約を立てて、永遠の契約とし、あなたと後の子孫との神となるであろう。」<sup>42</sup>そしてこう言った。「また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。」<sup>43</sup>しかし、これらの言葉によると、ユダヤ人はこの祝福を得る唯一の民族ではない。それでは、この神に授けられたアブラハムとの契約の祝福を受けるのは誰なのか。そして、日本はどのように関係しているのか。この疑問を解くために、ユダヤ人の系図を調べることにする。

#### a. イスラエルの系図

旧約聖書に出ているアダムの後最も影響力を持っていた予言者の一人はアブラハムであった。彼の義心のため、上述したように神様はアブラハムと彼の子孫に永遠の契約をした。下の図を見ると、アブラハムの系図によると子孫が多かった。



「定義」の節に言及したモーセはその子孫であり、そしてユダヤ人は全員アブラハムの曾孫ユダの子孫である。さて、神様とアブラハムとの契約の祝福はアブラハムの子孫のためであれば、その契約の祝福を受けられるのはユダの子孫であるユダヤ人だけでなく、すなわちヤコブ（イスラエル）の12人の息子の子孫である。父親のイスラエルから生得権（長子の相続権）の特定の祝福は各々の12人の兄弟と夫々の子孫に与えられた。ルーベ

<sup>42</sup> 旧約聖書創世記17章6～7節；『聖書』日本聖書協会2001年；18頁

<sup>43</sup> 前掲書22章18節；26頁

ンは長男として、元々この生得権を持っていたが、罪を犯したため、その権利を失い、ヨセフに与えられた。<sup>44</sup>この生得権はヨセフに与えられるだけでなく、12人の兄弟と夫々の子孫は生得権の祝福のいくらかの部分を与えられた。重要な部分はユダと彼の子孫、すなわちユダヤ人に与えられた。この祝福は王がユダの家系から来ることを指示する<sup>45</sup>。サウルやダビデやソロモン王たちはその子孫である。そして、旧約聖書によると、イエス・キリストもユダの子孫の一人である。創世記の第49章の10節<sup>46</sup>には、シロと言う人物に言及している。シロはヘブライ語で「権威を持つ者」という意味で、エゼキエル書の第21章の27節<sup>47</sup>と相互参照したら、同じような言葉を使う。そして、新約聖書のヘブル人への手紙の第7章の14節<sup>48</sup>にもキリストの家系は宣言している。ユダの弟のヨセフとその子孫も興味深い祝福を受けた。「ヨセフは実を結ぶ若木、泉のほとりの実を結ぶ若木。その枝は、かきねを越えるであろう。」<sup>49</sup>この聖句は日本人にとって重要である。それは後で言及する。

#### b. イスラエルの解散

この12人の兄弟の物語を要約するために、ヨセフは兄たちに苛められ、奴隷に売られエジプトに連れられた。それから、何年後にヨセフは神に恵まれていたため、下っ端から昇進し、エジプト王のパロ（大きな家と言う意味）の2番になった。ヨセフの父親と兄弟たちがカナンに住んでいた。当時に酷い飢饉があり、エジプトの王国に住んでいた民族はエジプトまで行き支援を求めた。これで、ヨセフは家族と再会し、一緒にエジプトで暮らすことになった。その後何年も絶ち、「イスラエルの子孫が多くの子を生み、ますますふえ、はなはだ強くなって、国に満ちるようになった。」<sup>50</sup>それから、イスラエルの子孫は「イスラエルの家」と「イスラエル」と呼ばれ始めた。その後エジプトは新しい王を任命し、その王はこう言われた。「見よ、イスラエルびととなるこの民は、われわれにとって、あまりにも多く、また強すぎる。さあ、われわれは、抜かりなく彼らを取り扱おう。彼らが多くなり、戦いの起こる時、敵に味方して、われわれと戦い、ついにこの国から逃げ去ることのないようにしよう。」<sup>51</sup>結果として、新しいパロはイスラエル人を奴隷にした。この状況は約400年間続き、ついに神が予言者モーセを通して自由の身にされた。それから、モ

---

<sup>44</sup> 旧約聖書歴代志上第5章1節、568頁、『聖書』日本聖書協会2001年

<sup>45</sup> 前掲書；2節

<sup>46</sup> 前掲書71頁

<sup>47</sup> 前掲書1178頁

<sup>48</sup> 前掲書；新約聖書、349頁

<sup>49</sup> 旧約聖書；創世記第49章の22節、71頁

<sup>50</sup> 出エジプト記第1章7節；74頁

<sup>51</sup> 前掲書9～10節

モーセは神から戒律を受け、そしてイスラエル人がモーセの律法を守ることになった。モーセはイスラエル人を彼らの夫々の先祖によって、12の部族に分けた。モーセはイスラエル人をエジプトから荒れ野に導き、何年後かについにカナンに到着した。この後、イスラエルは力強い王国になった。それから、イスラエル人とその王たちとの不調和のため、紀元前925年にイスラエルは北の王国と南の王国に分かれた。北の王国はイスラエルの家の10部族になり、12部族の大多数でイスラエルの名を保持し、ヨセフの息子エフライムの子孫がその中の一番多くを占めていた。南の王国の残った2部族の中にユダの子孫の方が多かったため、ユダの王国と呼ばれる。それから、イスラエル人の違犯が続いたため、神はアッシリアの帝国に北の王国の10部族を捕虜にさせた。その後、10部族はアッシリアに滞在したか、他の国に移動したかどうか誰もがあきらかに分らない。10部族は聖書や歴史から行方不明になった。

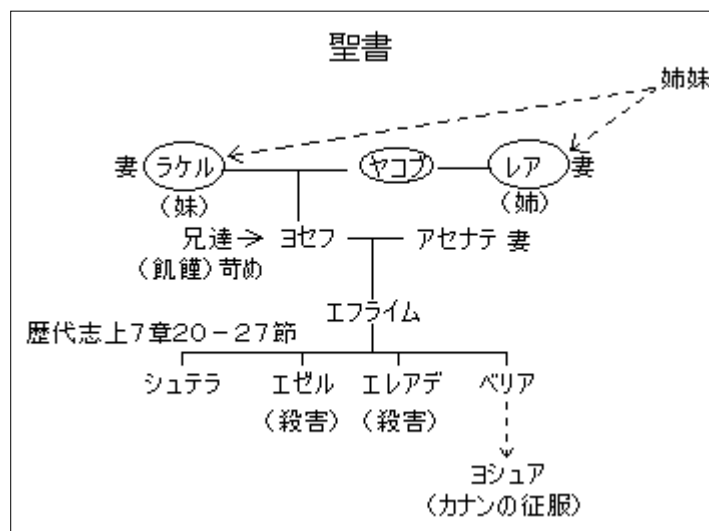
## 2. 日本に上陸したイスラエル人

イスラエルの十部族は解散した後、次第に人口も増えし、いたる所に土地を広げた。どこに行ったか誰もあきらかに分らないが、イスラエルの部族がアジアに痕跡を留めたと数人の学者は言う。そして、その学者らによれば、古代のイスラエルと日本の特徴の間に多数の類似性があるという。それは神道とユダヤ教の儀式との曖昧ではあるが確かな類似性や、建築術など明確な類似性も含む。そして、日本の神話にはユダヤ教との神秘的な類似性も見られる。

### a. イスラエルの系図と日本の神話<sup>52</sup>

この類似性を理解するために、イスラエルの系図をもっと深く見なければならぬ。この次はヤコブ（イスラエル）の系図で、ヤコブの2人の妻と息子のヨセフと孫のエフライムも含まれている。

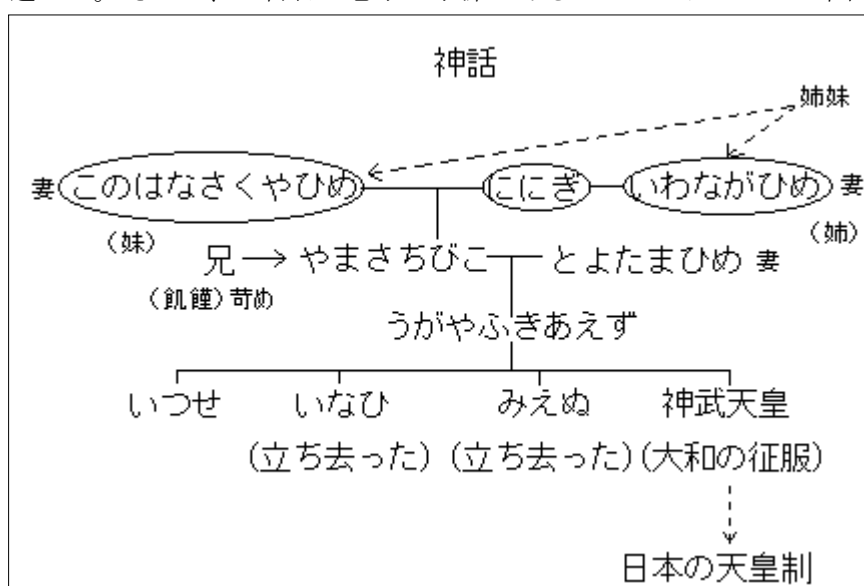
創世記によると、ヤコブは伯父のラバンの次女ラケルが美しく、嫁にしようとしたが、ラバンは「妹は姉より先に嫁がせる事はわれわれの国



<sup>52</sup> <http://www5.ocn.ne.jp/~magi9/isracame.htm>



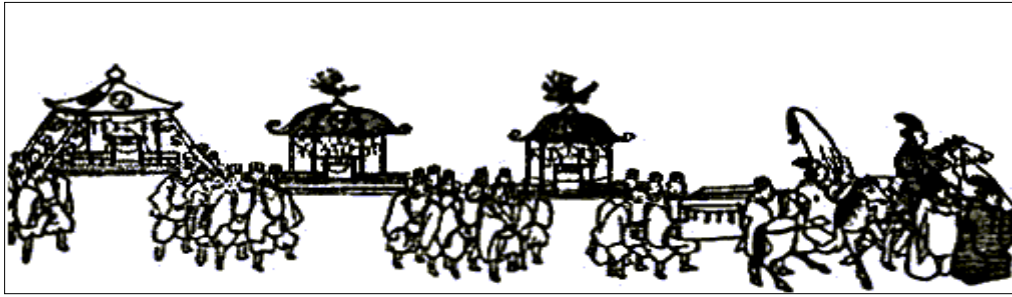
ではありません。」<sup>53</sup>それで、ヤコブは長女のレアと結婚したが、レアはあまりにも醜く、ラケルの方を愛していたので、ラケルと結婚するためにラバンの下に14年働いた。ヤコブとラケルの息子のヨセフは上述したように兄弟たちに苛められ、ヨセフがエジプトに行き、パロの下に2番となった。そして飢饉が起これ、ヨセフの兄弟たちがエジプトに行き、ヨセフと再会し、ヨセフが彼らを赦す。ヨセフはエジプト人の司祭の娘であるアセナテと結婚し、エフライムが生まれる。エフライムは4人の息子がおり、次男と三男が若くして逝いた。そして、4番目の息子の子孫であるヨシュアはカナンの国を征服した。



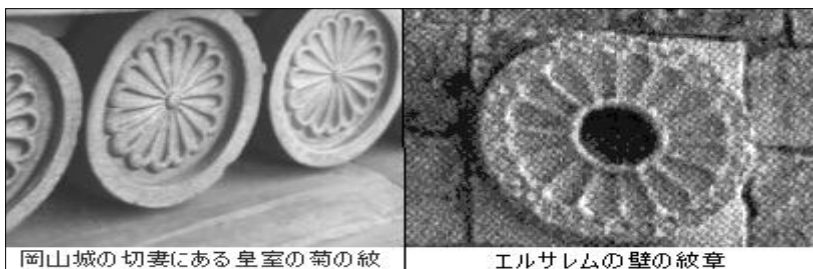
日本の神話によると、日本人は皆天照大神の孫であるにぎのみことの子孫である。にぎのみことは大和の先祖である。にぎのみことは高天原(天国)から来た時、このはなさくやひめという美しい女の

人に惚れ、結婚しようとしたが、彼女の父親は彼女の姉のいわながひめと結婚することを求めた。にぎのみことは二人とも結婚するけど、姉は醜くて、妹の方を好んだ。にぎのみこととこのはなさくやひめはやまさちびこという息子がいる。やまさちびこは兄に苛められ、海神の国に行かされる。そこで、やまさちびこは神秘的な力を得、兄に復讐として飢饉をさせるけど、後で兄を赦す。やまさちびこは海神の娘であるとよたまひめと結婚し、息子であるうがやふきあえずを生む。うがやふきあえずは4人の息子の父親であった。次男と三男は他の国へ立ち去った。そして、4番目の息子は大和を征服した神武天皇であった。詳しい細部以外、日本の神話は聖書の記録と似ている。8世紀に書かれた古事記と日本書紀の神話は元来聖書の物語に基礎づけられ、後に異教的な要素が加えられたという考えがある。そして、これらの系図は同じの物であるという考えもある。「イスラエルの系図」の節に上述したように、ヤコブの12人の息子は一人ずつ生得権の祝福を受けた。

<sup>53</sup> 創世記第29章26節；38頁



もう一度ヨセフの祝福に言及する。「ヨセフは実を結ぶ若木、泉のほとりの実を結ぶ若木。その枝は、かきねを越えるであろう。」これは何を意味するか分かるために、分析が必要である。「実を結ぶ若木」という句は他の言葉でよく実を齎すと言う意味もする。このような句を人に言及するとき、「多くの子を産む」と言う意味もある。ヨセフの曾祖父のアブラハムが神様に受けた聖約によると、神様がアブラハムの「子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする」<sup>54</sup>という事実があるから、アブラハムの子孫が「天の星のように」多くなるため、その子孫の中で誰かが「実を結ぶ若木」のようにならなければならない。そして、「その枝は、かきねを越えるであろう。」という言葉の意味は、その「若木」一つの場所に制限されることが出来ない。つまり、ヨセフの子孫は多くなり、一つの場所に制限されなく、国々の境界を越える。「イスラエルの解散」の節をもう一度言及すると、北の王国の中で、ヨセフの息子エフライムの子孫が一番多かった。そして、アッシリアの帝国は北の王国を侵略し、エフライムの子孫がたくさんいた十部族を捕虜し、アッシリアに連れて帰った。それからエフライムの子孫とその十部族は行方不明になった。しかし、ヤコブの系図と日本の神話の系図は同じ物であれば、そして両方が真実であれば、うがやふきあえずとエフライムは同じ人であるということになる。それは若干の学者の考えである。こういう研究は1879年頃に遡る。上の絵はN・マクラウドの「Epitome of the Ancient History of Japan」<sup>55</sup>の作物の部分からとられている。



岡山城の切妻にある皇室の菊の紋

エルサレムの壁の紋章

<sup>54</sup> 創世記第22章17節；26頁

<sup>55</sup> N. McLeod、東京；1879年

全面画の絵の上に「イスラエル人の考える日本への行進。部分的に古代の絵からとられている。」<sup>56</sup>と書いてある。こんな曖昧なことだけでなく、現代でも見える痕跡もある。たとえば、エルサレムの外の壁にある紋章と日本の皇室の菊の紋との親密な類似性がある。両方ともは16枚の花弁の花であると思われる。そして、これ以上にいくつかの痕跡があると言われている。

#### b. 御神輿と契約の箱<sup>57 58</sup>

神道のお祭りで担う御神輿とイスラエル人が荒れ野に担った「契約の箱」には興味深い類似性がある。

『広辞苑』によると、御神輿は神幸がある時、神道の神体や御霊代が乗るとされる輿である。御神輿は四角形や六角形や八角形の色々な形がある。そして、多くの御神輿は金銅の金具が付

けてある木製黒漆である。そして、御神輿は空っぽで、御神輿の蓋の上に鳳凰や葱の花がある。御神輿を担うために、御神輿の両側に2本の棒を轅に貫き、御神輿を運ぶ人々がその棒を肩に乗せ、祭りの中心まで運ぶ。

約紀元前1300年にモーセはエジプトの奴隷であったイスラエル人を解放した後、イスラエル人を荒れ野へ導いた。シナイ山でモーセは神に十戒の掟<sup>59</sup>、あるいは神の律法を受けた。その律法は二つの平たい石に刻まれた。神は十戒を刻んだ石を守るためにモーセに契約の箱を造るように命じた。出エジプト記の第25章<sup>60</sup>に神様はモーセに契約の箱を造るために精密な説示を与えた。この次に書いてある。10節：「アカシヤ材で

箱を造らなければならない。」11節：「純金でこれをおおわなければならない。すなわち、内外ともにこれをおおい、その上の周囲に金の飾り縁を造らなければならない。」12節：「また金の環四つを鑄て、その四すみに取り付けなければならない。すなわち、二つの環をこちら側に、二つの環をあちら側に付けなければならない。」13節：「またアカシヤ

<sup>56</sup> [www.jewishencyclopedia.com](http://www.jewishencyclopedia.com) ; Tribes, Lost Ten ; Japan

<sup>57</sup> 『広辞苑第五版』新村出版2002年「御輿」

<sup>58</sup> <http://bolosto.tripod.com/experiences/omikoshi.htm>

<sup>59</sup> 出エジプト記第20章 ; 102～103頁

<sup>60</sup> 前掲書110頁

材のさおを造り…。」 14 節：「そしてそのさおを箱の側面の環に通し、それで箱をかつがなければならない。」 16 節：「そしてその箱に、わたしがあなたに与えるあかしの板を納めなければならない。」 17 節：「また純金の贖罪所を造らなければならない。」 18 節：「また二つの金のケルビムを造らなければならない。」

…贖罪所の両端に置かなければならない。」 20 節：「ケルビムは翼を高く伸ばし、その翼をもって贖罪所をおおい、顔は互いにむかい合い…。」 21 節：「あなたは贖罪所を箱の上に置き…。」 22 節：「その所でわたしはあなたに会い、贖罪所の上から、あかしの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの人人のために、わたしが命じようとするもろもろの事を、あなたに語るであろう。」



契約の箱は御神輿のような形があるような事が聖書に記録している。そして、契約の箱は神輿と同じく、神が乗る所である。

聖書  
によ  
ると、

イスラエル人は契約の箱を荒れ野に担いだが、イスラエル人の違犯で、時々神様から指示を失い、踏み迷う。御神輿を運ぶ人々も祭りの中心まで直接に行かなく、町を回ってから到着する。



### c. 神社と幕屋<sup>61</sup>

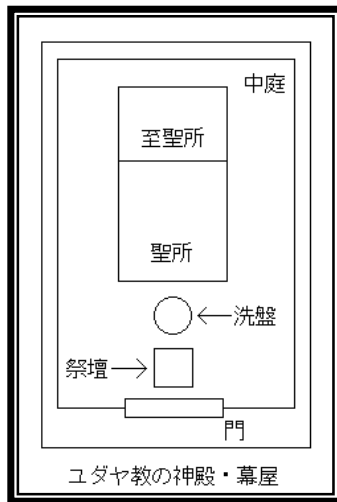
神社のユダヤ教の神殿や幕屋の間に多数の類似性がある。右の絵は典型的な神社を示す。鳥居以外、神社の示されている部分のような物はユダヤ教の幕屋や神殿にも表れている。

神を礼拝するために、イスラエル人と共に荒れ野にいたモーセは幕屋を建てるように命じられた。幕屋は、持ち運べる神殿であった。神はまた精密な説示を与え<sup>62</sup>、左の絵のような構成を指示した。幕屋は神社のようで、二つのに分かれている。神社の神は本殿の中に有る。モーセは神と会う場所は至聖所であり、契約の箱をそこに置く。幕屋と神殿の異なっていることいくつかあるが、これらの絵で分かりやすい箇所が一つある。イスラエル人は日本に上陸したことが事実であれば、なぜ祭壇がないかということ、聖書で調べなけ

<sup>61</sup> <http://www5.ocn.ne.jp/~magi9/isracame.htm>

<sup>62</sup> 出エジプト記第26章～第27章；111～114頁

ればならない。祭壇は聖書の創世記の第8章に言及されている。地球を沈めていた洪水の



後に、予言者のノアは神への感謝の気持ちを示すために、祭壇を建てて、その上に動物を全部焼いて神様に捧げた。<sup>63</sup>神はイスラエル人にも同じ事を命じ、祭壇を幕屋と含めるように言った。しかし、どこでもこういう犠牲をしてはいけなかったらしい。なぜかという、神はイスラエル人にこう言った。「慎んで、すべてあなたがよいと思う場所で、みだりに燔祭をささげないようにしなければならない。ただあなたの部族の一つのうちに、主が選ばれるその場所で、はんさいを捧げ、またわたし命じるすべての事をしなければならない。」<sup>64</sup>もしイスラエル人は日本に来たら、犠牲を行う事は命じられなかったという事がある。しかし、神道には、捧げ物をする習慣がある。平たく円

形の餅を神々に供える鏡餅というものである。

#### i. 伊勢神宮<sup>65</sup>

伊勢神宮は、三重県の伊勢市にある皇室の陵である。そして、神道の信者によると、伊勢神宮は天照大神が存在している場所である。この伊勢神宮の外観にある物は、ユダヤの歴史は興味深い類似性がある。



#### 1. ダビデの星<sup>66 67</sup>

伊勢神宮の神社に向かうと、道の両側にいくつかの石灯籠がある。それらの石灯籠に現代日本には合わない紋があると言われる。それはユダヤ教の象徴とされているダビデの星である。このマークは三角形

<sup>63</sup> 創世記第8章20節；9頁

<sup>64</sup> 申命記第12章13～14節；264頁

<sup>65</sup> <http://www5.ocn.ne.jp/~magi9/isracame.htm>

<sup>66</sup> <http://www.us-israel.org/jsource/Judaism/star.html>

<sup>67</sup> [http://www.aish.com/literacy/concepts/Star\\_of\\_David.asp](http://www.aish.com/literacy/concepts/Star_of_David.asp)

を2つ組み合わせた星形である。現代のイスラエル国旗にも用いられている。第二次世界大戦で、ヒトラーの統治下でナチは強制収容所にあったユダヤ人を他の民族と区別するために、ダビデの星が押印している腕章をつけさせた。ダビデの星は旧約聖書に出るダビデ王<sup>68</sup>の盾の形を象徴していると思われるが、初期のラビの文芸作品には証拠はない。若干の学者はダビデの星の上の三角形は神に向かい、下の三角形はこの世に向かっているという。そして、ダビデの盾は「神」という表現であるという考えもある。ダビデはイスラエルの軍を導いて、奇跡的に成功したので、ダビデは自分の力だけでなく、神の力で成功したという。もう一つの考えは6先端の星が中心から形式と実質を受けるということもある。これはユダヤ教とキリスト教の安息日と同じような事である。彼らは6日間で働き、そして1日間休む。ダビデの星は伊勢神宮の元敷地の京都にある真名井神社にもあるという。



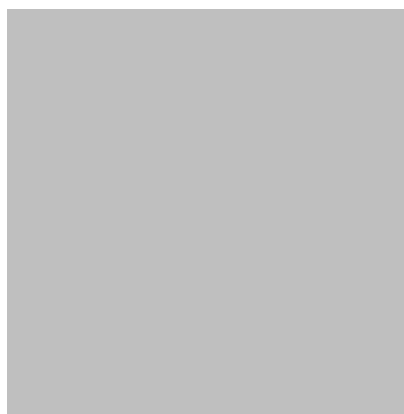
イスラエルの国旗

## 2. 八咫鏡

若干の学者の間で、伊勢神宮の本殿の中にある八咫鏡に関する流言がある。八咫鏡（大きい鏡という意味）は皇室の三種の神器の一つである。古事記と日本書紀の神話によると、嵐の神であるすさのおのみことが繰り返した犯罪のため、太陽の女神の天照大神は岩戸に隠れた。その時、天照が岩戸から出るために、いしこりどめのみことは八咫鏡を使ったと

いう。その後、天照はこの八咫鏡をいにぎのみこと（“イスラエルの系図と日本の神話”の節で言及）に授けたという<sup>69</sup>。八咫鏡は神道の信者にとって、とても神性なものであり、ほとんど誰もそれを見るのを許されないが、見たと強く主張する若干の人々がいる。第二次世界大戦後、青山学院大学の佐近という教授は八咫鏡の複製を皇居宮殿の中で見たという。佐近教授は八

咫鏡の複製の裏に非常に興味深い事を見たと言った。ヘブライ語のような字を見たと言った。複製をした際にそれらと言った人は本物の八咫鏡の裏を見、その模様を書き写したのであろうか。それは左の絵で示す。鏡にある文字を解



厳島神社の手水舎

<sup>68</sup> サムエル記上第16章～サムエル記下第24章；405～473頁

<sup>69</sup> 『広辞苑第五版』新村出版2002年「八咫鏡」

釈する方法は2つの理論がある。1つ目の理論は文字を日文（ひふみ）で解釈する方法である。日文は日本の神代文字の一つであり、神代から伝えられたという文字である。もう2つ目の理論はヘブライ語で解釈する方法である。若干の人々は八咫鏡の裏の中心にある丸の中の文字は「わたしは、有って有る者。」と読めるというという。他の人々はこの文字を「ヤハウエの光」と解釈し、旧約聖書のダビデが書いた詩篇に言及する。ヤハウエはヘブライ語で「神」という意味である。そして、詩篇には、「主なる神は日です、盾です。」<sup>70</sup>と記されてある。しかし、この書き写された模様は本当に八咫鏡から来ているかどうか、証拠はなく、この絵は謎のままである。

## ii. 手水舎と洗盤

多くの宗教には、神様の元へ入る前に、清めが必要である。神道はそれを行う一つの宗教である。神社の拝殿に入る前に、手水舎という水盤で手を洗い、口をすすぐ。これによって、体と霊を清め、神性な神社に入ることが出来る。日本は神道と仏教が「合併宗教」のような宗教があるため、日本人は神社の手水舎で手と口を洗うし、寺でもする。



古代のユダヤ教も体と霊の浄化を実行していた。神様はモーセに洗盤という水盤を造るように命じた。<sup>71</sup>この洗盤は真鍮で造られ、イスラエル人が使っていた幕屋や神殿の中庭で、祭壇と聖所の入り口にあった。ユダヤ教の司祭は幕屋の聖所に入る前に、洗盤の水で手と足を洗った。キリスト教徒にとってユダヤ教はキリスト教のための準備の福音である限り、この洗盤で洗うことは洗礼と似ている物だと思われる。しかし、洗礼は洗盤で洗うことと異なり、物質的な場所に入る前に体と霊を清めるのではなく、神様の身元、すなわち、天国に入るために清めるという意味がある。

## iii. 狛犬と獅子<sup>72 73</sup>

狛犬とは、神社の社前と社殿の前に置かれる神社を守る像である。獅子とも言い、沖縄ではシーサーと言う。大抵の神社は2つの狛犬があり、両方が同じだと思われるが、前の道の右側に



厳島神社の前の狛犬

<sup>70</sup> 第84詩篇11節；823頁

<sup>71</sup> 出エジプト記第30章17～21節；119頁

<sup>72</sup> 『We Japanese』 Frederic De Garis, Atsuharu Sakai ; Kegan Paul Limited、2002年；332頁

<sup>73</sup> <http://www5.ocn.ne.jp/~magi9/isracame.htm>

中国からの「唐獅子」の像があり、そして左側に朝鮮からの狛犬がある。これらは曖昧な起源があるが、中国では、住宅の前に獅子の像を置くという実行を昔の日本は採用したと若干の学者は考えている。狛犬は朝鮮の王の象徴であると言われる。200年前に日本は朝鮮を侵略した時、朝鮮の王が日本の忠誠を示すために、皇居宮殿を永遠に守ることを約束したと言われる。唐獅子と狛犬の外観はほとんど同じだから、区別は忘れられたと思わ



れる。また他の学者は神社の狛犬は神話のひでりのみことの象徴であると考えている。ひでりのみことはににぎのみことのもう一人の子で、やまさちこの兄であった。ひでりのみことはやまさちこを尊敬していたため、皇居宮殿を永遠に守ることを約束した。

古代のユダヤには、ダビデの息子のソロモン王は巨大な神殿と宮殿を建て、両方は前に獅子の像があった。<sup>74</sup>この実行は他の文化にも伝播されたよう

である。米国のニューヨーク市立図書館の前にも2つのライオンの像がある。

#### d. 神道とユダヤ教の儀式<sup>75</sup>

日本の宗教とユダヤ教は、物質的な特徴の類似性のほかに、宗教の儀式において僅かな類似性もある。日本で行われる若干の部分の儀式は旧約聖書の物語によく似ていて、その他の部分の儀式は古代のイスラエルの司祭が施した儀式に似ている。最初に、神道とユダヤ教のそれぞれの着ている式服の説明をする。その後、日本の大祓、流し雛とユダヤ教のアザゼルという身代わりの説明をする。それから、元々日本ではなかった沖縄におけるカンカーとユダヤ教の「過ぎ越し」という古代の出来事を明らかにする。最後に、御頭祭という神道の儀式と、旧約聖書に記されているアブラハムの物語を比較する。

#### i. 式服<sup>76</sup>

若干の学者は、神道の神主の着る祭服や式服が、イスラエルの司祭の式服、または農民の服装に似ているというと思われる。神主の式服の隅に20－30cmの房がある。旧約聖書には、神がモーセに式服に対してまた厳しい説教を与えた。「羊毛と亜麻糸を混ぜて織つ

<sup>74</sup> 旧約聖書列王記第7章36節、487頁；第10章19節、494頁

<sup>75</sup> <http://www5.ocn.ne.jp/~magi9/isracam4.htm>

<sup>76</sup> <http://www5.ocn.ne.jp/~magi9/isracame.htm>



た着物を着てはならない。身にまとう上着の四すみに、ふさをつけなければならない。」<sup>77</sup>服の隅に房を付ける事とは、その人はイスラエル人であるという意味である。新約聖書に記されている物語にも、キリストは偽善的なイスラエル人に非難をし、彼らの服について語った。「そのすることは、すべて人に見せるためである。すなわち、彼らは経札を幅広くつくり、その衣のふさを大きくし、…。」<sup>78</sup>そして、キリストの服装でも房があった。「…十二年間も長血をわずらっている女が近寄ってきて、イエスのうしろからみ衣のふさにさわった。」<sup>79</sup>そして、ユダヤ教の祭司は神道の神主と同じく、帯を締め、立烏帽子の

ような物を被る。「…彼らのために帯を作り、彼らのために、頭巾を作って…。」<sup>80</sup>

日本の宗教とユダヤ教の類似性のもう一つは、日本の修験者の外観である。修験者は別名として山伏と呼ばれ、山や荒れ野で禁欲的な生活する人物である。大抵の山伏の外観には、兜巾という黒い布で造られる小さい箱を額に被る。この兜巾は紐で頭に結びとめられる。そして、法螺貝を持ち歩き、鳴らす。山伏は仏教のものであるとされているが、山伏は日本以外の国にいないと思われる。その上、山伏は仏教が日本に伝播した前に存在していたと思われる。

一方、ユダヤ教徒には、申命記の第6章の4節からシェマという朗唱がしるされている。シェマは神の絶対唯一性に対する信仰告白である。熱心なユダヤ教徒は朝と夜の祈りとしてシェマを朗読する。神は、シェマの言葉の大切さを強調するために、このような比喩的なことを言った。「またあなたはこれを…あなたの目の間において覚えとし、またあなたの家の入口の柱と、あなたの門とに書きしるさなければならない。」<sup>81</sup>古代のユダヤ人はこの聖句を文字通りにとって、シェマの言葉を羊皮紙にしるし、革の小さい箱に入れて、その箱を頭に

<sup>77</sup> 申命記第22章11～12節；278頁

<sup>78</sup> 新約聖書マタイによる福音書第22章5節；37頁

<sup>79</sup> 前掲書第9章20節；13頁

<sup>80</sup> 旧約聖書出エジプト記第28章40節；116頁

<sup>81</sup> 申命記第6章8～9節；255頁

つける。その箱は上述したのように経札と言う。あるいは、聖句箱という。門に置く経札は「メーザーザー」という。ユダヤ教の祭司が持っている物のもう一つは「ショファル」というものである。ショファルは、雄羊の角で作った喇叭である。現代は、ユダヤ教の祭司はショファルを儀式のために使うが、古代はイスラエルの軍が敵の軍が近づくことの警告、そして攻撃するための信号、あるいは退却の信号としてショファルを使った。旧約聖書によると、ヨシュアとイスラエルの軍はショファルと大声で叫び、エリコ市を囲んでいた大きい壁を倒したという。<sup>82</sup>

## ii. 大祓、流し雛とアザゼル<sup>83</sup>

日本では、古代ユダヤ教の「贖罪」に対する考えと同じような伝統的な儀式がある。神道では、「大祓」という儀式がある。古代から、天皇が白い亜麻布の服を着て、その服を脱ぎ、小さい舟に入れるということを行う、大祓という儀式がある。そして、その舟を川に流す。その服は万民の罪や穢れを持っているため、川に流された後は、万民の罪や穢れが祓われた。神道には、天王星が神の子孫で、日本人全員の罪を担えるという事が言われている。現代大祓は全国各神社で行われる。大祓は6月と12月の晦日に行われる。日本では、もう一つの「贖罪」の儀式がある。これは「流し雛」という儀式である。3月3日に行われる節句として、夕方に紙作りの雛人形を川や海に流し、その雛人形に人間の罪を背負わせて流すのである。



流し雛人形

古代ユダヤ教では、大祓と類似する儀式があった。ユダヤ教の暦法によると7ヶ月目の1日目に「贖罪の日」の儀式を行った。レビ記の第16章によると、ユダヤ教の神殿の大祭司は白い亜麻布の式服を着て、この儀式を行った。最初に2頭の雄やぎをとった。その後、2頭のやぎを籤で分けた。一つの籤は神のための籤であり、もう一つの籤は「アザゼル」（贖罪のやぎ）のやぎのための籤であった。大祭司は神のための籤に当たったやぎを祭壇の上に神へ犠牲をささげた。そして、大祭司はアザゼルのための籤に当たったやぎの頭にイスラエルの罪を全部やぎに象徴的に伝播した。その後、イスラエルの罪を持ったアザゼルのやぎは荒れ野に自由にされ、二度と見られなくするというものであった。<sup>84</sup>

<sup>82</sup> ヨシュア記第6章20節；308頁

<sup>83</sup> <http://www5.ocn.ne.jp/~magi9/isracam4.htm>

<sup>84</sup> レビ記第16章4～10節、21～22節；158～159頁

### iii. 沖縄のカンカーと「過ぎ越し」<sup>85 86</sup>

元々日本でなかった沖縄では、興味深い出来事がある。『沖縄大百科事典』によると、「シマクサラシ」という行事が年中2, 3回行われると記されている。沖縄諸島では、この行事が様々な別名として呼ばれ、その一つはカンカーと呼ばれている。旧暦3月に糸満市喜屋武では、期日が決まると区長は区民に連絡し、牛を買うためのお金を集める。その後、区長は買った牛をマーチュウモートと呼ばれる所で殺す。その牛の骨をしめ縄に結んで村の入口など3ヵ所に張る。そこは村の内側と外側の境界と考えられている。殺された牛の肉は村のおおの家の家に分配される。村の子供たちは牛の血をジークンという葉につけ、家の門にさす。他の村は牛や豚ややぎも殺すという。これは悪疫が村に入ってくるのを防ぐために行われる行事であるという。現在、カンカーは次第に行われなくなり、沖縄島では中南部を中心に僅かに残っているようである。

これに類似する話がある。モーセはイスラエル人であったエジプトの奴隷を解放させるために、パロに10回訪れた。しかし、1～9回の時にはパロがイスラエル人を解放することを断った。そこでその代わりに神はパロが断る度に、悪疫をエジプト人に行った。パロは悪疫を受けたエジプトを見て、イスラエル人を解放することをモーセに約束した。そしてその代わりにモーセは悪疫が終わらせるために神に祈った。そして、悪疫は終わったが、その終でパロはまた頑固にも、イスラエル人を解放しなかった。そのため、神は連続に悪疫をエジプトに送った。しかし、エジプトに住んでいたイスラエル人は奇跡的に影響を受けなかった。これらの悪疫には：川の水が血に変わった・蛙の群・蚋の群・蛇の群・家畜の病・腫れ物・炎の雹・蝗の群・三日間の暗みが含まれていた。10回目の悪疫は最も恐ろしかった。真夜中に神はエジプトに「滅ぼす者」を送った。この滅ぼす者はエジプト全地に行き巡り、全ての人間や家畜の初子を殺した。神はイスラエル人の初子は「滅ぼす者」に殺されないようにモーセに指示を与えた。「あなたがたは急いで家族ごとの一つの小羊を取り、その過越の獣を屠らなければならない。また一束のヒソプ（植物類）を取って鉢の血に浸し、鉢の血を、かもい（鴨居）と入口の二つの柱につけなければならない。朝まであなたがたは、ひとりも家の戸の外に出てはならない。主が行き巡ってエジプトびとを撃たれるとき、かもいと入口の二つの柱にある血を見て、主はその入口を過ぎ越し、滅ぼす者が、あなたがたの家にはいって、撃つのを許されないであろう。あなたがたはこの事をあなたと子孫のための定めとして、永久に守らなければならない。」<sup>87</sup>こうして、イスラエル人は皆滅ぼす者に殺されることなく、エジプトからパロに解放された。その後、

<sup>85</sup> 「シマクサラシ」；『沖縄大百科事典』「中巻ケート」；沖縄タイムス社1983年；327頁

<sup>86</sup> 出エジプト記第7章～第12章；82－92頁

<sup>87</sup> 前掲書；第12章21～24節；90頁（括弧とその内容は筆者による）

神はイスラエル人が神の力で解放されたことを思い出すために、この儀式をいつまでもしなければならなくなった。10回目の悪疫でイスラエル人はやっと解放されたため、その儀式は「過ぎ越し」と呼ばれる。この出来事は非常に重要であったため、神が解放された日を彼らの暦法の初日にするように命じた。この日はグレゴリオ暦によると、3月下旬～4月初旬にある。

沖縄のカンカーはイスラエル人の過ぎ越しと似ている。両方は悪疫が入って来ないために動物の血を門につけた。そして、行う時期も同じ頃である。もっと不思議なのは、「カンカー」という言葉である。15世紀に、琉球諸島（沖縄）は日本と中国の両属の地であった。その結果として、琉球人は混合した言葉で話した。広辞苑に記されている「かんか」の登記は22件がある。これらの登記を『漢字源（JIS 漢字版）』で参照すると、「カンカー」の音に一番近い中国語の漢字は、「看過」と「瞰下」である。広辞苑によると、「瞰下」の意味は「みおろすこと」と言う意味である。「看過」の1番目の意味は「大したことではないとして見のがすこと。」という意味である。2番目の意味は「見すごすこと。見おとすこと。」という意味である。出エジプト記に記されているイスラエルの解放の話にもう一度言及すると、神はエジプトを見下ろして、滅ぼす者を送り、血で記されていた門を見過したのである。

#### iv. 御頭祭とアブラハム<sup>88 89 90</sup>

長野県にある諏訪大社には「御頭祭」（おんとうさい）という古来から重んじられてきた祭りがある。この祭りで行う事は旧約聖書に記されているアブラハムと彼の息子イサクの

物語と酷似している。

御頭祭は現在、田植えが無事に終え、害虫や害獣（昔は猪、鹿などの獣）に作物が荒らされずに無事に収穫できるように祈る五穀豊饒の祭りである。剥製にした鹿の頭を「御贄柱」という柱に載せ、それを神社に担って行く。古代の御頭祭は現代と少し異なっている。昔この祭りは「御神」（おんこ）という8歳ぐらいの少年を「御贄柱」（おにえばしら）と呼ばれる物に縛り付け、竹の筵に置いた。その後、諏訪大社の神官は小刀を持ち、少年に

<sup>88</sup> <http://www.mars.sphere.ne.jp/kuronekoin/onto-sai.htm>

<sup>89</sup> <http://www5.ocn.ne.jp/~magi9/isracame.htm>

<sup>90</sup> 諏訪大社の代理人と電話インタビュー；2003年8月29日

近づき、柱の上の部分に刻んだ。その後、もう一人の神官は前の神官を留まらせ、柱に縛り付けられた少年を解放した。その後、少年の代わりに75頭の鹿を犠牲にして、諏訪大社の神に捧げた。その75頭の鹿の中で、1頭の鹿は裂けた耳がある。その鹿は「神が矛に獲った鹿」という。この祭りは守矢山（もりやさん）という諏訪大社の後ろにある山の近くで行ったと言われている。

旧約聖書の創世記によると、アブラハムと妻サラは約70年間、子供がいなかった。しかし、神の使いはアブラハムとサラの前に現れ、サラが息子を産めるようになると宣言した。<sup>91</sup>この息子の名前はイサクである。イサクはヤコブ（イスラエル）の父である。イサクはアブラハムによってサラの唯一の子供として、大変愛されていた。ある日、神はアブラハムの献身を試すために、アブラハムに変わった指示をした。「あなたの子、あなたの愛するひとりイサクをつれてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさい。」<sup>92</sup>その後、「アブラハムは燔祭の薪を取って、その子イサクに負わせ、手に火と刃物とを執って、ふたり一緒に行った。」<sup>93</sup>そこで、イサクは父のアブラハムに聞いた。「火と薪とはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか。」<sup>94</sup>アブラハムはこう答えた。「子よ、神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう。」<sup>95</sup>この次のようにこの物語が続く。「彼らが神の示された場所にきたとき、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、その子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。そしてアブラハムが手を差し伸べ、刃物を執ってその子を殺そうとした時、主の使いが天から彼を呼んでいた。“アブラハムよ”。彼は答えた、“はい、ここにおります”。み使いが言った、“わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った。この時アブラハムが目をあげて見ると、うしろに、角をやぶに掛けている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行ってその雄羊を捕らえ、それをその子のかわりに燔祭としてささげた。」<sup>96</sup>アブラハムは神の指示に従い、唯一の子のイサクを燔祭として神に捧げることにし、神への強い献身を示した。神はアブラハムがイサクを殺させることなく、その代わりに雄羊を備えた。その後、神はアブラハムが強い献身のため、「イスラエル人の系図と日本の神話」の節に既述した聖約をした。

御頭祭とアブラハムの話には興味深い事はたくさんある。御頭祭は守矢山（もりやさん）の近くで行い、アブラハムとイサクが登った山はモリヤという地にあるという類似がある。

---

<sup>91</sup> 創世記第18章10節；19頁

<sup>92</sup> 前掲書第22章2節；25頁

<sup>93</sup> 前掲書6節

<sup>94</sup> 7節

<sup>95</sup> 8節

<sup>96</sup> 前掲書9～13節；25～26頁

そして、御頭祭の「御神」とイサクは、両方少年を犠牲とされ、神に捧げようとされた。結局、その少年は殺されなく、代わりに角のある動物を捧げる。諏訪大社の神には、「たけみなかた」の神、また「ミサクチ」という神がいる。神話によると、たけみなかたの神の父親は「大国主」（おおくにぬし）である。漢字の意味の通りにすると、「大国の主」である。イサクの父親のアブラハムは元の名が「アブラム」で、神は聖約をした時、名前を変えた。「あなたの名は、もはやアブラムとは言われず、あなたの名はアブラハムと呼ばれるであろう。わたしはあなたを多くの国民の父とするからである。」<sup>97</sup>「アブラハム」はヘブライ語で「多くの国民の父」という意味である。そして、ある研究家は、「ミサクチの神」は「ミ・イサク・チ」に違いないと指摘している。

## ・結論

### A. キリスト教の影響

「多くの日本人は生まれてから、神道の儀式を行う。キリスト教の教会で、キリスト教の牧師によって結婚式をする日本人もいる。そして、亡くなった時、仏教の葬式がある。」こういう言葉はよく耳にする。でも、この言葉は事実であろう。「無宗教」と思われる現代の日本人は日々の生活には、人口の大部分がキリスト教徒である西洋の国々に影響されている。それは良い影響も悪い影響もある。ザビエルが鹿児島に上陸した時代から現代にかけて、日本人のキリスト教への反応は様々であった。西日本の大名の中には、キリスト教を利用してポルトガルの商人と売買したという食欲さを表す者、下層階級の農民の中には、キリスト教を心から信じ、その信念のため死んだ者までいた。キリスト教は徳川家康のような支配者には恐れを抱かせたため、キリスト教禁止令という結果を招くことになった。そして、隠れキリシタンは約200年間密かにキリストを礼拝するという勇気を表す者もいた。現代の日本はキリスト教を受け入れるというより、土着のキリスト教を作っているようである。そして、他の宗教はキリスト教の教えを取り入れ、仏教や神道の教義と混合している。これらの影響は、外面的に見える影響である。それ上、この影響は多くのキリスト教信者が弾圧されるという惨事も起こしてきた。現代の日本人には、歴史を繰り返すことなく、宗教から自分の人生に良い影響を得るため、キリスト教を選択する際には、その教義を個人的なものとして捉え、実行する必要があるのではないだろうか。

### B. 古代のキリスト教：ユダヤ教の影響

日本人は、キリスト教を始めて味わった時はザビエルが日本に来た時であるという事は

---

<sup>97</sup> 前掲書第17章5節；18頁（下線は筆者による）

事実なのだろうか。日本人の先祖は、古代キリスト教のユダヤ教を実行していたのではないだろうか。若干の学者が現代そのことについて研究している。神道や日本人の習慣とユダヤ教の教義に関する類似性に対して、ただの偶然の一致であると多くの学者は考えている。一方、若干の学者は日本人がアブラハムの子孫であると確信した。どの話が本当なのか。それが偶然の一致であると考えerことは容易である。しかし、神道は古代ユダヤ教であった微妙な形跡が存在している事も確かである。神社の地取りはユダヤ教の幕屋と似ている事や、伊勢神宮にある形跡や、沖縄のカンカーや、諏訪大社の御頭際は全部明確な証であると若干の学者が指摘している。そして、神道は創設者がはっきり存在しないという事実もある。神話は本当は旧約聖書の話ではないか。それは真実であれば、日本人は神がアブラハムの子孫に約束した祝福を受ける権利も与えられている。何が真実であるとしても、それを受け入れる事はまた個人的な問題ではあるが、興味深いことであり、日本の歴史を異なった視点から捉えることが出来るものであり、今後も研究の蓄積に注目したい。